

つじあけた 最高裁の壁 布川事件再審で無罪判決

JR浦電事件の無罪にむけ 大きな足がかりとしよう!

取り調べの全面可視化、司法改革の実現で えん罪の温床をなくせ!

5月24日、水戸地裁土浦支部は布川事件の被告である杉山卓男さん、桜井昌司さんに無罪判決を言い渡した。しかし事件発生から43年という「えん罪」によって奪われた貴重な年月は還ってこない。えん罪事件の根絶にむけ、労働組合としてしっかりと取り組んでいかなければならない。

布川事件では目撃証言や自白録音テープに意図的な改ざんが行われた。検察は村木事件の証拠改ざん同

様、いったん決めつけた有罪を証拠改ざんによって維持しようとした。浦電事件でも同様である「有罪ありき」判決を引き出すために検察は証拠のテープ反訳を改ざんした。そして労働組合活動を犯罪とした。労働組合は組合員の利益を守るためである。そのためには職場からの力、仲間の団結の力が必要だ。職場活動をさらに強化し、最高裁で口頭弁論を開催させ、7人の無罪判決を勝ち取ろう!



布川事件 再審無罪

自白の誘導指摘

水戸地裁「不自然さ散見」
 支那判決「不自然さ散見」

判決骨子
 ●強盗殺人については人はいづれも無罪
 ●強盗殺人と結び付ける客観的証拠はない
 ●被害者間で2人を指したとの証言は信用性に欠ける
 ●自白録音テープが検定された後により作成された可能性を否定できない

1月16日、水戸地裁土浦支部は、布川事件の被告である杉山卓男さん、桜井昌司さんに無罪判決を言い渡した。検察は村木事件の証拠改ざんと同様に、布川事件でも証拠のテープ反訳を改ざんした。そして労働組合活動を犯罪とした。労働組合は組合員の利益を守るためである。そのためには職場からの力、仲間の団結の力が必要だ。職場活動をさらに強化し、最高裁で口頭弁論を開催させ、7人の無罪判決を勝ち取ろう!

職場活動の否定 東労組運動の排除を許さず 仲間とともに闘い抜こう!

5月25日 東京新聞